# 会議録

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議の名称 | 令和７年度第２回東松山市地域自立支援協議会全体会 | | |
| 開 催 日 時 | 令和８年３月２４日（火曜日） | 開会 | 午後２時 |
| | | 閉会 | 午後４時 |
| 開 催 場 所 | 東松山市総合会館多目的ホールＢ | | |
| 会 議 次 第 | １　開会<br>２　あいさつ<br>３　議事<br>（１）各プロジェクト・連絡会議からの報告<br>（２）具体的事例を通じて地域課題を考える～各取組に関連する実例の共有～<br>（３）来年度スケジュール（案）について<br>（４）その他<br>４　その他 | | |
| 公開・非公開の別 | 公開 | 傍 聴 者 数 | １人 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 委員出欠状況 | 会　長 | 朝日　雅也 | 出 | 委　員 | 佐藤　美奈 | 出 |
| | 委　員 | 丹羽　彩文 | 出 | 委　員 | 矢部　智之 | 出 |
| | 委　員 | 岸澤　進 | 欠 | 委　員 | 浅野　聖子 | 出 |
| | 委　員 | 武田　耕典 | 欠 | 委　員 | 南澤　甫 | 出 |
| | 委　員 | 松井　治子 | 出 | 委　員 | 横田　大輔 | 出 |
| | 委　員 | 上野　秀爾 | 出 | 委　員 | 狐塚　汐里 | 出 |
| | 委　員 | 池永　和美 | 出 | 委　員 | 長澤　誠 | 欠 |
| | 委　員 | 西川　光治 | 出 | 委　員 | 和久井　洋助 | 欠 |
| | 委　員 | 原子　一彦 | 出 | 委　員 | 磯﨑　祐子 | 出 |
| | 委　員 | 奥村　一彦 | 出 | 委　員 | 牛久保　菜々子 | 欠 |
| | 委　員 | 若尾　勝己 | 出 | 委　員 | 榎本　淳也 | 欠 |
| | 委　員 | 戸森　健治 | 欠 | 委　員 | 田中　久 | 欠 |
| | 委　員 | 井上　則子 | 出 | 委　員 | 山名　朋子 | 出 |
| | 委　員 | 大石　和夫 | 出 | 委　員 | 長澤　正博 | 欠 |
| | 委　員 | 田原　祐己子 | 欠 | 委　員 | 柴崎　恭史 | 出 |
| | 委　員 | 山口　剛史 | 出 | 委　員 | 荻原　久美子 | 出 |

| | | |
|---|---|---|
| 各プロジェクト・連絡会議 | 東松山障害者就労支援センター　木村 孝 | 東松山市社会福祉協議会　阿久津　明子 |
| | 西部・比企地域支援センター　南澤　甫 | |
| 事　務　局 | 健康福祉部　　柳沢部長 | 健康福祉部　　山口次長 |
| | 障害者福祉課　小松主査 | 障害者福祉課　大曽根主査 |
| | 障害者福祉課　金子主任 | |

| 次　　第 | 顛　　末 |
| --- | --- |
| **1　開会** | |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | 皆様　こんにちは。<br>本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。<br>私は、本日の司会を担当いたします障害者福祉課の金子と申します。<br>どうぞよろしくお願いいたします。<br>それでは、ただ今から令和７年度第２回東松山市地域自立支援協議会全体会を開会いたします。<br>はじめに、本協議会の会長であります朝日会長よりご挨拶いただきます。 |
| **2　あいさつ** | |
| 朝日会長 | ―　挨拶　― |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | ありがとうございました。<br>本日の会議の会議録作成にあたり、出席委員２名の方に署名をお願いしたいと存じます。本日の会議録につきましては、松井委員と横田委員にお願いいたします。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を申し上げますので御署名をお願いいたします。 |
| **3　議事** | |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | それでは議事に入ります。議事につきましては、東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長が進行を務めることとなっておりますので、朝日会長よろしくお願いいたします。 |
| 朝日会長 | では、しばらくの間、議事を進行してまいりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。<br>まず、議事に入る前に、確認事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、会議の公開・非公開の決定を会に諮って決めることになっております。本日の会議を公開の会議といたしまして、会議資料や会議録を公表してよろしいでしょうか。 |
| 委員一同 | ―　異議なし　― |
| 朝日会長 | それでは、本日の会議は公開とします。事務局に確認です。本日、傍聴希望者の方はいらっしゃいますか。 |
| 事務局 | １名いらっしゃいます。 |

| | |
|---|---|
| （障害者福祉課<br>金子主任） | |
| 朝日会長 | それでは、傍聴者に入室いただいてください。<br><br>―　傍聴者の入室　― |
| 朝日会長 | では、議事に移ります。次第に従って進めてまいります。議事の（１）各プロジェクト連絡会議からの報告です。各プロジェクト・連絡会議から令和７年度の実績についてご報告をいただきたいと思います。<br>皆様からの質疑応答につきましては、全ての報告が終わった後で、お願いをしたいと思います。それでは、障害者進路支援連絡会議からお願いをしたいと思います。 |
| 木村リーダー | ―　障害者進路支援連絡会議について報告　― |
| 朝日会長 | 続いて、障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議から報告をお願いします。 |
| 阿久津リーダー | ― 障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議について報告 ― |
| 朝日会長 | 続いて、医療・福祉連携プロジェクトから報告をお願いします。 |
| 南澤リーダー | ―　医療・福祉連携プロジェクトについて報告　― |
| 朝日会長 | 続いて、地域生活支援拠点等連絡会議から報告をお願いします。 |
| 南澤リーダー | ―　地域生活支援拠点等連絡会議について報告　― |
| 朝日会長 | ただいま各プロジェクト・連絡会議から報告がございました。委員の皆様からご質問やご意見があればいただきたいと思います。まずは、障害者進路支援連絡会議について、ご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。 |
| 若尾委員 | 二点ほど、令和８年度の事業を進めていく中で方向性として考えているようであれば教えてください。まず一点目として、第１回の会議でも質問をさせていただきましたが、令和７年１０月から始まった就労選択支援事業についてです。当法人も含め、複数の事業所が開設しているところではないかと思います。就労選択支援事業の事業者とこの連絡会議がどのように連動していくかを伺いたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| | もう一点、特別支援学校以外の生徒さんにも周知を図りたいというお話がありました。これまでも高等教育機関に障害者手帳を持っていない方が多く進学をされていましたが、昨今の就労支援業界の状況として、最近は手帳を持っている方が高等教育機関に入ることも非常に多くなってきております。特別支援学校卒業以外にも、高等教育機関卒業から障害者雇用等に向かっていく方も相当数いらっしゃるというお話を聞いています。そういった意味でも、一般の中学校や高校に対する情報提供について、この連絡会議ではどのように考えられているのかもう少しお話を聞かせていただきたいと思います。 |
| 木村リーダー | まず、一点目の就労選択支援事業の件については前回もご質問をいただいておりましたが、比企地域自立支援協議会が中心に関わっているところですので、こちらの連絡会議で連動して関わるような動きはさせていただいておりません。ただし、情報提供という点では、保護者に対し情報を提供するための手立てを考えなくてはならないか考えています。そのような状況ですので、今のところ就労選択支援の事業者との連携というところまでは、検討には至っておりません。<br>もう一点、特別支援学校以外の生徒への対応について、現在、地域の小、中学校に通われている生徒が、高校から特別支援学校に入られて、福祉に関する情報がわからない中で高校生活をあわただしく過ごしている方が増えているという情報がありました。こういった方々にも情報提供をさせていただき、手帳のない方も進路選択に迷わないような方法を検討したいと考えているところです。高校を卒業された後や就職された後、就職はしたけれどもうまくいかず、引きこもってしまう方もいらっしゃると聞いているので、一度就職につまずいても再就職ができるような情報提供の機会が作れたらよいのではないかと考えています。 |
| 若尾委員 | ありがとうございます。比企地域自立支援協議会の就労支援連絡会に関しては、高校卒業後、直接、就労継続支援Ｂ型を利用する方への就労アセスメントを進めていくことを柱として活動していた経過があります。今回の就労選択支援事業は、公示された中では就労継続支援Ｂ型を新規で利用するところからスタートしています。それから段階的に就労継続支援Ａ型の事業所も含まれてきます。そういった意味では就労選択事業は、本来はもっと広い意味での就労の可能性を考えるというものであり、サービスとしては本連絡会議とかなりリンクしているのではないかと思っています。そこを切り離すよりは何らかの連動性のあるものを作っていった方がよいのではないかと考えているところだったので、ご意見させていただきました。 |
| 朝日会長 | ありがとうございます。一点目については、具体的には会議の構成員 |

| | |
|---|---|
| | として、例えば就労選択支援事業者もコミットしていくようなイメージかと思います。二点目については、高等教育機関に在籍している障害がある方の進路支援について、今までのスキームはどちらかというと中学あるいは特別支援学校高等部でしたが、その上で高等教育機関を卒業して就職することや、進路を選択していくことも進路支援の範疇になってくることもあります。実態の把握とともに、この会議の機能と役割として、どのように関わっていくかが非常に重要になってくるのではないかということを感じました。<br>ほかにはいかがでしょうか。本会議では、当事者や、そのご家族の方も多く参加されているので、もしよろしければご感想でも結構でございますので、山名委員さんの方からご意見いただけたらと思います。 |
| 山名委員 | 我が家には特別支援学校に通っている中学１年生のこどもがいます。今年度のキャリアデザインフォーラムには参加できなかったのですが、特別支援学校の進路フェアに初めて参加させていただいた中で、何を聞けばよいかわからない状況でした。特別支援学校にいれば、小学部から中学部、高等部という流れや同じ地域の中で学ぶことができるので、学校行事等を通じて、なんとなく今後どういうことをするのかわかったりすると思うのですが、地域の小学校や中学校に通っている支援級の方が情報を得るというのは、各家庭の受け入れ状況等も左右してくるかと感じています。そうした中で、地域の学校の先生の中で相談できる人や情報をわかっている方がいらっしゃると心強いのではないかと感じます。例えば、キャリアデザインフォーラムに地域の学校の先生が来てもらえると相談しやすいのではないかと感じました。 |
| 朝日会長 | ありがとうございます。もちろん、ご本人とご家族の意向があって、その上でキャリアデザインフォーラムや職業体験という機会があると思うのですが、そこを安心してつないでいただける立場の方がいることなども含め、環境が整っていくとよいのではないかというご意見かと承りました。<br>議長でありながら私からも一つお聞きしたいのですが、１２頁に記載のある次年度に向けて障害者雇用を行っていない企業にも参加していただくことについて、とても素晴らしいことだと思うのですが、現在、障害者雇用をしていない企業にとってのインセンティブになる情報として、どのような動機付けや誘導方法を考えていらっしゃるのでしょうか。 |
| 木村リーダー | これからの法定雇用率の達成という点から、企業としても障害者雇用をしていかなければならないとおっしゃっている企業もあるので、こういった機会を通じて障害者を知っていただき、受け入れる最初のきっかけとしていただければ、雇用の広まりにも繋がるとお話をさせていただ |

| | |
|---|---|
| | いたところ、企業からも体験してみたいということで快く受け入れていただきました。次年度以降についても、職業体験をきっかけに、今後の雇用や実習等に繋がっていくとよいと考えています。 |
| 朝日会長 | ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。<br>では、続いて障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議について、ご質問、ご意見をお願いします。 |
| 丹羽委員 | １７頁のアンケート結果に利用登録者１１５名のうち、セルフプランが５７名で約５０％と記載されておりますけれども、市全体の障害児のセルフプラン率はどれくらいなのでしょうか。 |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>小松主査） | 障害児のセルフプラン率については、令和８年２月末時点で５３．６％となっております。具体的には、分母となる受給者数が２５０名、そのうちのセルフプランでの利用者数が１３５名で、割合は５３．６％となります。補足をさせていただきますと、セルフプラン率が最も高かったのは令和６年４月で、６６．５％でした。これを受け、個別に利用者と相談員とのマッチングを市で行い、４０から５０件ほどマッチングさせた結果、５０％前半代までに下がりました。一方で、そもそもサービスを受給しているこどもの数は、令和元年４月時点では１０６名でしたが、直近値が２５２名となっており、令和元年の２．４倍に増加している実態も併せてお伝えします。 |
| 丹羽委員 | ありがとうございます。国の方でもこども家庭庁が設立されたように、こどもをどう支援していくかということは非常に重要な課題であり、サービス利用者がどんどん増加している中で、身近で相談ができないために、本来必要ではない人もサービスを利用してしまうという状況も起きています。国からも示されたように、来年度から児童発達支援についての新規利用については見直しを行うことにもなっていますので、今一度、オール東松山でこの問題について考える必要があると思います。行政ががんばっていただいてマッチングを進めてくれましたが、それはもはや担当者だけではなくて、市の問題として障害のあるこどもを支える土台をどう作るのかをしっかり戦略を練って進めないといつまでたってもこの状況は変わらないと思います。東松山市よりも人口が２、３万人ほど多い愛知県半田市では、３年位かけてセルフプラン率を０％にしたという取り組みもあるようです。課題解決のためにはその地域の事業者に働きかけなければ進まないと思います。例えば、半田市では精神障害者の支援のみを行っていた事業者にも、まちのこどもを一緒にみていって欲しいということで、事業所指定をしてもらうというような動きもされたと聞いております。どんなことが可能なのか、それを皆で一緒に考えて、 |

| | |
|---|---|
| | 働きかけていく。我がまちのこどもを、せめて我々が対象とする障害のあるこどもたちを何とかしていこうという戦略を練って、早期解決をするべきと思います。そうしないと、恐らく進路やその先の課題に繋がっていってしまい、障害児は障害児、障害者は障害者というラインでずっと生きていくという話になってしまい、いつまでたってもインクルーシブのまちにはならないので、こどもの分野をしっかりとオール東松山で取り組んでいく仕組みをしっかり作っていけたらと思います。本件は、幹事会の中でも議論をしていきたいと思います。 |
| 朝日会長 | ありがとうございます。今お話があったように、例えば、事業所からの回答結果としてセルフプランが５０％という結果があり、そのことについて事業所はどう考えているかというところまで踏み込んだ上で共有するなど、事業所間で考えていくことが大事だと思います。もちろん、全体としてサービスが行き渡ることは大事ですが、現状そのサービスの供給が非常に多くなっているので、本当に必要としている方に向けて、必ずしも専門家が誘導するというわけではないですが、様々な第三者が客観的な観点から相談をした上でニーズをしっかりと見極めていくことが、健全なサービスの発展に必要だと思います。そういった観点を入れていただくとよいのではと思いながら聞いておりました。 |
| 佐藤副会長 | ２０頁の令和８年度事業計画案の中で、４番目に児童発達支援センター機能の充実と記載があります。児童発達支援センター機能については、東松山市は箱物ではなく面的整備という選択をして、国も面的整備については中核的な役割を一緒に連携しながら実施するという例を提示していたと思うのですが、市としての在り方の中で、来年度はどういった機能を充実させたいのかについて伺いたいと思います。 |
| 阿久津リーダー | 現状、電子相談窓口の受付は障害者福祉課で行っていますが、繋ぎ先として保健センターやこども家庭センター、総合教育センターや医療機関等と密に連携を図っております。そうした中で、具体的な検討までは至っていないのですが、こういった地域のこどもに関わる機関がより一層連携を図りながら、地域でこどもの発達をきちんと見守っていく機能が必要かと感じています。また、余談になるのかもしれませんが、２月に本連絡会議の実務者間での連絡会議を行っております。その中で、保健センターの方から、５歳児健診が始まった中で、ますます教育分野との連携が不可欠になってきているという現状の共有や、児童発達支援事業所の方からもセルフプランが増えて地域の保育園や幼稚園との連携が難しくなってきている状況があるという課題も提起されましたので、研修会等を通じて、より一層児童発達支援センターの機能の充実に繋げたいと思っています。 |

| | |
|---|---|
| 山名委員 | 私は、最初はセルフプランでサービス利用を始め、その後、相談員につながるというルートをたどってきた中の１人なのですが、私の場合、そもそも相談員が足りず、申し込む時になかなか繋げてもらえないので、とりあえず最初はセルフプランで開始する流れでサービスを導入しました。そういう意味で、なぜセルフプランの人がこれだけいるのかという理由も把握していった方がよいのではないかと思いました。 |
| 朝日会長 | 今回の調査では、事業者の方からは利用者の方がなぜセルフプランなのかという理由までは把握されていないということですので、やはりこの問題について考えていく上ではそういう方々の背景や情報をしっかりと把握した方がよいのではないかというご意見ですね。ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。<br>私から発言して申し訳ないのですが、１６頁にも記載がある、事業として行われている保育所等訪問支援や療育等支援事業などの学校へ訪問するサービスとの差別化について、差別化という表現が適切かは別として、要はこれらの新しいサービス体系と、この連絡会議の役割をどのようにすり合わせていくかというところを一度整理して、落ち着いて検討していくことが必要ではないかと感じたところです。<br>では、続いて医療・福祉連携プロジェクトについて、ご質問、ご意見をお願いします。<br>それでは、皆様からご発言いただく前提としての確認ですが、プロジェクトから連絡会議に移行する理解として、プロジェクトといういわば取組として対応してきたところから、今度はパーマネントに連絡会議という体系に変わっていくというように、位置づけを変えていくという理解でよろしかったでしょうか。 |
| 南澤リーダー | そのとおりです。有期限であるプロジェクトとしては成果を挙げて終結しますが、課題や今後の進め方が見えてきたところなので、今後は連絡会議に移行する予定です。 |
| 朝日会長 | ありがとうございます。そうしたご提案も含めて、令和８年度の計画をご説明いただいたところです。 |
| 丹羽委員 | 医療・福祉連携プロジェクトの成果として一番大きいことは、市民の中にどのような医療的ケアが必要な人がいて、それが何人いて、どこにいるのかを全て把握したことだと思います。これは他の市町村ではまだまだ取り組めていないことです。市や県など様々な窓口があって、なかなか統合されていなかったことを乗り越えたという点は、とても大きな意義があります。さらに、把握した人たちをただ名簿にするのではなく |

| | |
|---|---|
| | て、ケースモニタリングで一人ひとりのフォローを関係機関で行えているという点は、始まった当初から考えれば大きな意味があります。このケースモニタリングに参加した機関も、このまちにこれだけ多くの医療的ケアを必要とする人やこどもたちがいるということを理解しながら、その次をどうするか、例えば、学校卒業後はどうするかということを一緒に考える人達が多くできたことは大変大きな成果かと思います。そういう意味では、プロジェクトの役割は終えたように思いますので、次は連絡会議という恒常的な会議体として、プロジェクトの有期限では解決できなかった課題についての取組をしていただきたいと思います。<br>　その中で、学校卒業後だけではなく、日々の生活の中で保護者たちの困りごとやレスパイト、緊急時の支援など、本日、私がお配りしたパステルタックプロジェクトでも気管カニューレがトラブルを起こしたときの対応を学ぶワークショップを実施するのですが、これも地域生活支援拠点等事業と関連する話かと思います。地域生活支援拠点等事業はまだそこまでのウイングを広げられていないと思いますが、緊急時の対応についても「十分できている」というような評価ですので、今後は医療的ケアの連絡会議と地域生活支援拠点等連絡会議で、幸いにも南澤委員が両方に携わっていたこともありますので、ぜひ連携しながら取り組んでいただきたいと思います。 |
| 佐藤副会長 | 　自立支援協議会は、個別に一人ひとりのことを考えた時に、そこから見えてくる課題こそが地域課題ではないかということを背景としています。その点で、一人ひとりのモニタリングを続けられているという点が、やるべきところがしっかりとできていると思いました。その中で、今期は成人期のモニタリングを実施したとのことです。お子さんのモニタリングの際は、対象者の人数や、どのような医療的ケアがあるかという表も配られましたので、成人期の方についても把握されている対象者の人数や、どのような課題が見えてきたかについても、もしあれば教えていただきたいと思います。 |
| 南澤リーダー | 　成人期と児童期に分けてモニタリングをしており、昨年１１月１３日に行った第２回モニタリングは、成人期の方々について実施しました。リストアップしたのは１３名であり、話の中で出てきた課題としては、家族以外と外出することの難しさが挙げられていました。医療的ケアに対応した事業所の選定という課題のほか、仮に対応できる事業所があったとしても、家族以外の方が支援することに対する家族の複雑な気持ちや葛藤もあって、サービスに繋がらないという現状が確認されました。 |
| 朝日会長 | 　ありがとうございました。２４頁に記載のあるケースモニタリングの参加機関の図について、自立支援協議会関係ではこどもの育ちと学びを |

| | |
|---|---|
| | 支える連絡会議が入っています。先ほどの南澤リーダーのご説明の中では、来年度の取組として進路支援連絡会議のケースモニタリングへの参加とお話がありました。医療的ケアを必要とするお子さんの発達に伴って、学びの保障も大事ですが、その上でその後の進路は関係ないとしてしまうのではなくて、どういう状況にあってもそのお子さんが学齢期を超えて、進路の方向性を考えていくということが非常に重要だと思います。今後はこの参加機関の図に進路支援連絡会議も入る形になるのかと思いました。<br>　また、２６頁で、令和８年度以降の中・長期にかけての展望ですが、川島ひばりが丘特別支援学校との協議の継続とありました。この点について原子委員からコメントをいただければと思いますが、いかがでしょうか。 |
| 原子委員 | 　本校の事も考えていただきながら取り組んでいただいてありがたいと思っています。今年の３年生は１４名卒業し、手元にデータがないので東松山市在住の方がそのうち何名かはわからないのですが、多くの方の進路先が１か所ではすまないという実情があります。特に重度のお子さんの進路先としては生活介護がほとんどかと思いますが、５日間同じ事業所に通うということはできず、２から３か所の事業所利用となっています。複数の事業所との契約となると、保護者にとっても生活リズムが違ってきますので、そういった意味では同じ事業所に通った方がよいと思っています。ただ、同じ自治体に空きがなくて、東松山市ではないと思いますが、他の自治体だと居住地以外にも通わなければならないという例もあるのが現状です。ですので、もう少し医療的ケア児も含めた重度のお子さんの受入の枠が広がるとよいと思っています。中には、療育等も考えた上で２か所を選ぶという方もいらっしゃいますが、そういった現状についてお話させていただきました。 |
| 朝日会長 | 　直近の卒業生の方の状況も含めてご意見ありがとうございました。<br>　ほかにはよろしいでしょうか。<br>　では、続いて地域生活支援拠点等連絡会議について、ご質問、ご意見をお願いします。 |
| 横田委員 | 　３１頁の④の３番目に記載のある地域移行に係る聞き取り調査について、わかる範囲でよろしいのですが、どのような聞き取りや調査をしたのか教えていただければと思います。 |
| 南澤リーダー | 　調査にあたっては、事前に本人の希望があるか、家族がどう考えているか、入所施設の職員としては地域移行が実現可能かどうかをアンケート調査した上で整理しています。聞き取りは、今回３名に伺っているの |

| | |
|---|---|
| | ですが、形態としては、本人、相談支援事業所の相談員、入所施設の職員、行政と私で面談をいたしました。時間としては３０分から４０分ぐらいで、内容としては、本人に対しては地域移行の希望があるかについて伺い、施設職員には本人の住まいの場についてどのように考えているか、例えば家族の意向を踏まえた上でも将来的に施設を退所して地域で暮らすことが可能だと思うかということを中心に聞き取りをしました。 |
| 横田委員 | ありがとうございます。私たちも相談員の方から、入所施設から出られそうな方がいると話を受けたことが今まで何件かありましたが、結局、家族からの反対で話が止まってしまうことが多々ありました。これから意思決定支援が重要視されてくるでしょうし、入所施設でも地域移行の意向確認担当者もできたので、利用者の意思を尊重し、今後、地域移行される方が増えていけばよいと思っております。 |
| 上野委員 | 拠点事業では緊急時の受け入れとして、短期入所で事業所登録をさせていただいていますが、実際は緊急時の受け入れは簡単ではありません。特別に緊急時対応のための体制を作っているわけでもなく、また、専用の建物があるわけでもない中で、今いる利用者さん達の中に突然入ってくるという、お互いに環境が変わる中で、とにかく無事にショートステイが終わることを祈ることが多くあります。夜も職員２名体制で何十人の方を見ていかなければいけない中で、これは非常に難しいと受け止めています。ただ、実際にこれまで他の市町村からはありましたが、東松山市からあかつき園で緊急一時の受け入れ依頼はありませんでした。資料にも記載がありますが、緊急時の実績が一件ということをどう評価すべきかについて、緊急性はあったけれどもショートステイを使わずに済んだのか、それとも緊急性がなかったということなのか、そのあたりがもう少しわかるとよいと思いました。また、緊急時の実績は一件だったけれども、今後も登録事業所を増やしたいという意向も示されていましたが、数から言うともう十分満たされているのではないかとも思いました。有事があった場合には、たくさんの事業所が登録されていた方がよいかとも思いますが、実績が少ないにも関わらず、事業所の登録数を増やそうという目的や狙いがあるようでしたらお聞かせいただければと思います。 |
| 南澤リーダー | まず評価のところについて、未然に防げた、緊急事態に至らなかったという事例もいくつかあるのですが、その評価をどのようにするのかが非常に難しいと考えております。予防的対応があったために未然　に防げたかなど、整理をする必要を感じているところです。もう一点、ご質問をいただいた緊急の実績がないにもかかわらず、登録事業所を増やしていく理由については、現状でも複数の事業所に登録をいただいている |

| | |
|---|---|
| | のですが、やはり初見では受入が難しいということがあります。逆に、事前に何回か利用したことがある人は受け入れしやすいことがあります。ですので、普段利用している事業所が登録をしていれば、普段そこを利用している利用者の緊急時にはそこを利用できるため、現在登録をしていない事業者も登録をしていただけると、利用者も安心して利用ができるので、今後も登録事業所が増やしていきたいと思っています。 |
| 上野委員 | わかりました。ただ、あかつき園の場合、入所されている方と通所で通われている方が登録されている場合、入所と通所が明確に分離されているので、緊急の場合は入所の職員が受け入れを行うことになります。入所の職員が必ずしも通所の方を熟知しているわけではないので、その点はあかつき園固有の問題かもしれません。 |
| 朝日会長 | ありがとうございます。もちろん、緊急時の切迫した状況が他の方法で未然に防げればそれに越したことはないと思います。しかしながら、一方で南澤リーダーがおっしゃったように、様々なチャンネルといいますか、選択の幅を広げておくことで、マッチングを含め緊急時により速やかな対応ができるかもしれないこともあり、それぞれの事業所の事情を十分に把握しながら、全体像として緊急対応の幅を広げて準備しておくことの必要性が示されているように今の議論から感じ取りました。<br>ほかにはいかがでしょうか。 |
| 丹羽委員 | 今の上野委員のお話をなるほどと思いながら聞いていました。やはり働き手不足の中では当法人でも緊急の受け入れがいつもできるわけではないので、どうしても難しい時は、当法人に通所している利用者をあかつき園さんに受け入れをお願いしたり、逆にあかつき園さんに通所している方を当法人で受け入れるというように、お互い様な面が拠点事業の中には含まれているように思います。そういうことで少しずつ相互のサービスを利用し合えるようになっていくとよいと改めて思いました。また、これだけやっていてもショートステイの対応実績が一件だったというのは、恐らく平時から丁寧な支援を各事業者がされているということと、もしかすると各事業所で解決してしまい、実績として計上されてこないという実態もあるのではないかと思いました。やはり、自分の事業所に通われている利用者は、自分達で何とかしようと考えると思います。ただし、それだけではどうしようもなくなる時もあるかもしれないので、ぜひとも拠点登録していただき、一緒にお互い様で支えあえるように進めていくとよいかと思います。今回、報酬改定で通所事業所にも枠が広げられました。他の地域の場合、例えば、通所先に１日だけ何とか泊まって、入浴だけは近隣や社会福祉協議会の入浴場を使用して乗り切るという例も出てきているようなので、そうした先進事例も視野に入れなが |

| | |
|---|---|
| | ら体制作りをしていくとよいと思います。<br>　もう一点、昨年１０月から拠点コーディネーターとして当法人から南澤コーディネーターが配置されています。これは当法人だけで人件費を拠出しているのではなくて、東松山市社会福祉協議会さんや緑光会さんにもご協力をいただきながら、加算を一緒に算定し共同で人件費を拠出して拠点コーディネーターを配置しています。まだ半年しか経っていないのですが、一人だけに負荷がかかってしまい、拠点コーディネーター自身が潰れてしまうと地域にとっても損失になるので、ぜひ大切に大きく育てていただきたいと思います。また、ぜひもう１人、２人と、拠点コーディネーターを追加配置して盤石の体制にしていただきたいと思います。この拠点コーディネーターが配置された意味は、コロナ禍以降、停滞してしまっている地域移行や地域定着、親亡き後ということを心配される家庭からの自立を促進するということで配置しているので、緊急の部分については、国の方でも示されている基幹相談支援センターと拠点事業と自立支援協議会の３つで考えながら仕組みづくりをしていくことになっていますので、ぜひ、次のコーディネーターが別の法人、事業所から配置できることを願っています。南澤コーディネーターについても、本人がどうしても地域のことをやりたいという思いがあったので送り出しており、当法人も決して人材が余っているわけではないので、ぜひ皆さんにもご理解いただき、ご協力いただけたらと思います。 |
| 朝日会長 | 　ありがとうございました。地域生活支援拠点等事業を自立支援協議会としてしっかりと把握し、方向性を見守っていくということは、緊急事態の対応はもとより、本来、地域で障害のある方がどういう状況であっても安心して暮らしていける方策を導くための一つの拠点であるという共通認識が非常に大事だと思いました。<br>　ほかにもご意見、ご質問があるかもしれませんが、時間も経過してきましたので、議事の（１）については以上とさせていただきまして、議事（２）「具体的事例を通じて地域課題を考える～各取組に関連する実例の共有～」についてです。まず事務局からご説明をお願いいたします。 |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>小松主査） | ―具体的事例を通じて地域課題を考える～各取組に関連する実例の共有～について報告 ― |
| 朝日会長 | 　ありがとうございました。この対象者をどう支援していくかを決めることではなく、さらなる議論の活性化を目指して、アウトリーチ型でこの対象者に対してどのように対応してきたかという広がりと、今後の支援の必要性を共有化することによって、それぞれの会議やプロジェクト、あるいは委員の皆様の立場からどんなことが想定できるかということを |

| | |
|---|---|
| | 考えていただくための素材として提出していただきました。今日のところは試しにというところでございますので、時間的にも深めていくことは難しいかもしれませんが、今のご報告の中でお感じになったこと、気づいたことがあれば、今後の事例検討に向けての示唆として受けとめたいと思います。対象者にとってどのような日中の過ごし方がよいのかや、働き方も含めて何か情報提供できないか、今は福祉サービスを利用されていないということですが、今後はサービスを利用する可能性があるなど、具体的に地域で対象者を支えていく上での方策になるかと思います。どんなご意見でも結構です、いかがでしょうか。 |
| 佐藤副会長 | 大変良い事例だと思って読ませていただきました。感想になりますが、この場も障害がある方達の福祉から発している協議会ではありますが、この事例の中でも社会福祉課の登場があったという記載があります。色々なことを超えてアウトリーチから支援に入ったという点は本当に新しい取り組みだと思いました。どうしても障害という切り口で物事を見てしまうのですが、この家庭はずっとこの暮らしを続けてきた中で、困りごとは災害という、つまり暮らしの延長なのだということに気付かせてもらえました。先ほど丹羽委員の発言の中にもありましたが、地域づくりということからすると、障害者は障害者のレールに乗っていくだけではないという、そういった視点に戻してもらえる事例だと思いました。 |
| 朝日会長 | ありがとうございました。私も議長をしながら、どうしてもこの会議の性格上、抽象的な着地点になりがちですが、誤解のないように言うとこの対象者をどう支援するかをここで協議することではなく、それぞれの立場で一人の方に現在もなおアプローチしサポートしていただいているという中で、先ほど佐藤副会長もおっしゃったように、障害を切り口として関わるけれども、将来の生活を見据えたときに何らかのクライシスが起きるかもしれない。そこに向き合っていらっしゃる家族で、たまたまそこに障害という背景があり、東松山市を中心として日々の暮らしを成り立たせています。どうすればクライシスに陥ったときに適切に対応し、あるいは陥らないような対応を考えていくかなど、この対象者への支援という答えではありませんが、地域自立支援協議会として、これだけの多くの会議等を通じて目指しているところを改めて確認していく必要があるのではないかと思ったところです。<br>どうしても、療育手帳がＡだとか、このような障害者に関する会議だと等級や数字が最初に出てきがちです。もちろんそれも大事な情報ですが、やはり対象の方は一人の市民であり、７月に訪問した際は世帯全員で元気に過ごせているけれども、何らかのサポートが必要な場合にはどうするかを考えていくことの重要性をこうした事例を通じて生み出していただけるとよいかと思いました。 |

| | |
|---|---|
| | ほかにはよろしいでしょうか。もしよろしければ、またスタイルが変わるかもしれませんし、いろんなバリエーションがあるかもしれませんが、ぜひ具体的な実例をイメージしながらこの会議の検討が進むように、個々の準備をしていただきたいということでまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。<br>それでは、続いて議事（３）「来年度スケジュール（案）について」説明をお願いします。 |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | ―　来年度スケジュール（案）について説明　― |
| 朝日会長 | このことについてなにかご質問等ございますでしょうか。<br>ないようでございましたら、以上をもちまして、議事を終了し、議長の役割からおろさせていただきたいと思います。ご協力、誠にありがとうございました。事務局にお返しいたします。 |
| ４　その他<br>事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | 朝日会長ありがとうございました。続いて次第の４、その他でございますが、委員の皆様から何かございますか。 |
| 丹羽委員 | ―　「アメニティフォーラム２９」と「第５回パステルタッグプロジェクト」についての情報提供　― |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | ありがとうございました。<br>そのほかはいかがでしょうか。 |
| 井上委員 | 先日、メールで送られてきた、１１月１０日に開催された地域生活支援拠点等連絡会会議の会議録の中で、思うことがありました。「知的障害がベースにある精神疾患者の対応が難しいという話があったが、何か対応について助言等があれば教えてほしい」という質問に対して、「こどもの頃に両親が甘やかしすぎてしまい、大人になってから暴力や暴言となって出てくるパターンが多い。こういった方が、両親がいなくなったときに、施設入所が難しくなってしまうことがあるので、早期に対応することが重要と思われる」という文章がありました。甘やかしすぎるということに関しては、客観的に見てどうかというところはあると思うのですが、私のこどもが今４３歳ですが、暴言や暴力に長い間悩まされてきました。甘やかして育てたつもりはなかったのですが、特に２０代が一 |

| | |
|---|---|
| | 番ひどかったかと思います。精神科も受診していたのですが、その先生からは年代もあると言われました。もちろんそれもあるとは思うのですが、暴言や暴力をする背景には、不安など、それなりの理由があると思います。何らかの理解されない鬱憤がたまって、ある段階で爆発してしまうということがあると思います。なので、全てが甘やかされて育ったせいだということではなくて、その原因を理解しようとする心を持って欲しいと思います。実際、今も家では理想的に過ごしているわけではありませんが、心持ちの違いということで対処して、かなり本人が変わっていくということがあるのです。発達障害の治療においても、薬よりも環境を整えるということがどれだけ大事かということが言われています。そういうことを親の立場からして、理解してほしいと思っています。 |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | ただいまご意見をいただきました内容につきましては、事務局より送付した地域生活支援拠点等連絡会議の会議録の内容かと思います。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいた意見につきましては、事務局から地域生活支援拠点等連絡会議にも共有を図らせていただきたいと思います。<br>そのほかはいかがでしょうか。<br>ないようですので、閉会にあたり健康福祉部長の柳沢よりご挨拶申し上げます。 |
| 柳沢部長 | ―　挨拶　― |
| 事務局<br>（障害者福祉課<br>金子主任） | 以上をもちまして、令和７年度第２回東松山市地域自立支援協議会全体会を終了いたします。本日はありがとうございました。 |

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和８年　４月１７日　　署名委員　松井　治子

署名委員　横田　大輔